

プログラム名	
3 R チャレンジ！ ～紙すき体験「割りばしから和紙づくり」	
プログラムの概要・ねらい	
家庭や学校から大量にごみが出ていることに気づき、「もったいない」と感じ、作っては捨てて焼却することへの疑問を投げかけます。破棄するごみを資源にできないかなどを児童に問いかけ、「ごみ」そのものに対する意識を深めます。「割りばしから和紙作り」体験を通して、リサイクルを実践してもらい、割りばしから身近な資源のサイクル（循環）を実感できる機会にします。	
プログラムの分野	
☐ 地球温暖化防止・エネルギー ☒ ごみ・3R ☐ 自然 ☐ 生き物 ☐ 大気 ☐ 水 ☐ その他	
プログラムの対象者	
☐ 幼稚園等(☐ 3 歳児 ☐ 4 歳児 ☐ 5 歳児) ☒ 小学校 1,2 年 ☒ 小学校 3,4 年 ☒ 小学校 5,6 年 ☒ 中学校 ☐ 特別支援学校(☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☐ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱)	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
座学は、学年単位の人数も可。紙すき体験は、1校時1クラス（約20～25人）で実施	
実施場所	所要時間
教室、体育館、家庭教室(多目的室)などの屋内	座学・体験は2時限 低学年の場合、紙すき体験のみも可
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	講座:スクリーン、プロジェクター(TV)、ホワイトボード 体験:アイロン(数台)、椅子2脚、長机4～6台、水(バケツ3倍程度)
団体に準備するもの	パソコン、紙すき体験道具一式、資料パネル、和紙作品、配布資料、ヒノキ伐材の割りばし(プレゼント)等
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
アイロンを要するので、火傷しないよう指導、注意が必要、コロナ対策では蜜を避ける屋内で実施するため、雨天時の対応は必要ない。	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	【導入】 ごみを「もったいない」と感じた ことある？ ごみとして捨てていた割り箸は、「木」、身近な資源です。 【展開】 「もったいない」につながる「3R」を学び、クイズ形式でペットボトル・びんや紙類などの「容器や包装類」の値段を考えてみる。 ごみとして捨てるのではなく、分別すれば資源になることを理解してもらう。 割りばしから紙づくりの体験を通じて、「3R」の一つであるリサイクルを実践する。(2校時は紙すき体験)	
	【体験】 割りばしから紙づくりの体験で リサイクルを実践してみよう ① 紙すきの手順を実演して説明する。 ② 特にアイロンの取扱いに注意をするよう指導する。 ③ グループごとに分かれ、紙すき体験をする。 ④ すき枠を水から上げて、はがきの水分を手動式しぼり器など使って、2回しっかり水分を取る。 ⑤ しっかり水を絞った和紙(はがき2枚)のアイロンがけをする(やけどしないように気を付けるよう注意) ⑥ アイロンをかけ終わると、割り箸原料パルプから、2枚のハガキができる。	
展開		
		
確認	【まとめ】 作った(漉いた) 2 枚のはがき。1つは自分用に、もう1つは 家族や親しい人へのプレゼント！ 紙すき体験をやってみて、どう思った？ 割りばし以外にもリサイクル できるものは他にもあるかな？ 考えてみよう。	

【プログラムのアピールポイント】

- ★割りばしリサイクルを通して、身近な資源の循環(リサイクル)を実感することができます。
- ★「木から紙ができる」を体験でき、オリジナルはがきを持って帰ることができます。
- ★子どもたちが、このはがきを「敬老の日」などにプレゼントすれば、大変喜ばれるとともに、はがきを介して循環サイクルの輪、笑顔が広がるでしょう。
(ハガキの寸法は基準を満たしているので、郵便物として利用できる)
- ★ほとんどの生徒はアイロンがけの経験がないので、講師が複数で対応し、やけどしないよう注意を払います。

【授業を受けた先生の声】

子どもたちは割り箸でできる和紙に大きな感動を得ている様子だった。出来上がったはがきを使い、国語の時間にお礼の手紙の書き方を練習して郵送、授業に活用した。地球環境に関する話は特に興味深く、環境保全の大切さに気付いた。